

モンゴル帝国期多言語複合公文書研究第1回ワークショップ・「モンゴルの歴史・文化をめぐる基本問題」第5回研究会「モンゴル帝国期多言語文書史料群と歴史研究：イランと中国を中心として」(2010/12/11於早大)

インシャー史料によるペルシア語モンゴル命令文研究について

渡部良子(東京外語大AA研ジュニアフェロー)

0. はじめに

※本報告の目的：プロジェクト計画＝モンゴル支配期西アジア・イラン高原で成立した「モンゴル命令文」研究におけるペルシア語インシャー史料活用の事例を提示、その可能性と方法を検討

0-1. ペルシア語文書研究におけるモンゴル命令文書式

- ・「ペルシア語モンゴル命令文」：13-14世紀、モンゴル帝国、イル・ハン朝とその後継王朝がペルシア語で発行した文書、モンゴル命令文書式(cf.[松川1995])の影響を受ける／モンゴル支配期以前のペルシア語命令書の諸規範と融合、独自の命令文書式の形成→後代のペルシア語文書様式に短期的・長期的影響を与える
- ・イル・ハン朝・後継王朝(チョバン朝、ジャライル朝)ペルシア語(他の多言語複合)行政文書…→ティムール朝、トルコマーン王朝、サファヴィー朝前期文書に様式的連続性を見いださう／同諸政権アラビア語外交通信
- ・ペルシア語モンゴル命令文書式の研究：ペルシア語文書学(勅令様式の変遷)[Qā'im Maqāmī 1350kh] [Fragner 1999]／アルダビール文書群を中心とする文書研究[Herrmann 2004]他／モンゴル命令文の特徴に関する俯瞰的・総合的研究はこれから[小野1993, 1997]

0-2. ペルシア語モンゴル命令文研究におけるインシャー史料の活用

- ・文献史料における写し文書：現文書より史料的重要性は劣る(外形的特徴の消失、誤写の可能性)／現文書史料の不在を補う cf. 『集史』ガザン・ハンのヤルリグ写し(sawād-i yārliḡh) [本田1991]
- ・インシャー(inshā', 創造・作文) [Roemer 1971][Paul 1998]
文書・書簡作成のマニュアル・用例集、文集(アンソロジー、個人作品集＝インシャー集munsha'āt)／アラビア語書記術マニュアル(正書法～財務・文書術)→ペルシア語・トルコ語、文書術・散文術の文学ジャンルとして発展／書簡作法・書記の教養(adab)の伝授・規範的文章(行政文書～文学)の蒐集→文書行政の実態をどの程度反映しているかは作品による／文書に関する理念・認識を伝える
- ・モンゴル支配期(13-14世紀)のインシャー史料：Dastūr al-Kātib(『書記典範』)ほか多数、ペルシア語インシャー術の伝統を維持しつつモンゴル政権文書行政の影響を反映[渡部2004]／モンゴル命令文書式研究への活用 [渡部2009(口頭発表)]

⇒西アジアにおけるモンゴル命令文書式のヴァリエーションの研究に、インシャー史料(及びその他の文献史料)がどのような情報を提供しうるか

⇒モンゴル支配期インシャー史料収録の公的命令書・行政文書写しの蒐集・調査：ジュワイニー書簡群収録命令書

1. インシャー史料に見るペルシア語モンゴル命令文書式：冒頭書式と抬頭

※文献史料中の写し文書における文書形式の情報

- ・写し文書=多くの場合、命令文本文のみを収録→冒頭書式やその他の形式的特徴(行下げ、抬頭など)の省略/インシャー史料=規範的美文や名作への関心
- ・例外的だが形式を反映した写し文書も存在・・・モンゴル命令文の形式的特徴への関心・配慮?
- 『集史』パリ写本Supplement Person 1113, 1561: ガザンのヤルリグ写し、冒頭書式と本文開始部の行下げを反映(2009年3月調査で確認)
- MS. Nakhchiwānī(アナトリアのインシャー集)収録のイル・ハン朝発給ヤルリグ(ガザンの娘オルジェイ・クトルグの私有地管理に関する命令): イル・ハン朝に関する名称・語彙(オルジェイ・クトルグ/ヤルリグ/日たいや増す rūz-afzūn[王朝の修辞])が抬頭として写本欄外に抜き出し[MS. Nakhchiwānī, foll. 123b-124b.]

1-1. 冒頭書式

1-1-1. 西アジア・モンゴル政権における文書分類と冒頭書式

- ・モンゴル帝国文書行政の階層的秩序: jarliq と üge/冒頭書式による区別 [松川1995]他
- ・イル・ハン朝文書行政の二重構造: 帝国内・モンゴル語=üge/国内・ペルシア語=yarligh(jarliq) [杉山1990]

・西アジア・モンゴル政権の文書(現文書・写し)→文献目録付表

(A)外交文書: ウイグル字モンゴル語(対ヨーロッパ)・アラビア語(対アイユーブ、マムルーク朝)

(B)内政文書: モンゴル語・ペルシア語/君主発給勅令・高官発給文書

・文書分類と冒頭書式 →資料I

ウイグル文字モンゴル語外交・内政文書(A-I)(B-I-I): üge/諸王発令文書冒頭書式/権限付与を欠く例、本文中でjarliqの語を用いる例

アラビア語外交文書(写し)(A-II): farmān/諸王発令文書冒頭書式(アバカ、アフマド)→イスラーム的冒頭書式(ガザン)

ペルシア語君主発給内政文書(B-I-2): 用例稀少/farmān、冒頭書式は継承されていない/yarlighは1例のみ(石刻)/sūzmīz (sözümiz)は1例のみ[Pa 1]

ペルシア語高官発給文書(B-II): 君主のヤルリグによる権限付与と発給者名Intitulatio、イスラーム化以降はアッラーへの祈願Invocatio/言語的なヴァリエーション=アラビア文字トルコ語定型句(T, T-2)

「・・・のヤルリグにより、・・・の言葉により、・・・の言葉(...yārlīghīndīn/ ... sūzīndīn/ ... sūzī)」、ペルシア語定型句(P)「・・・のヤルリグにより(az hukm-i yarlīgh-i ...)」

1-1-2. 文書分類・冒頭書式に関するインシャー史料の情報

・アラビア文字トルコ語定型句の定着

現文書: アルグン、ガイハトゥ期Baitmish発給文書(1288, 1292 = [Her 1, 2]、権限付与欠損)、ガイハトゥ期Šadr al-Dīn Aḥmad Khālidi発給文書(1293 = [Smith])

←ジュワイニー家書簡群Saḫna'-i Tabrīz(723 Rabī' I/ 1323書写)写本(アバカ期Shams al-Dīn Juwaynī発給マドラサ教授職任命文書、678 Jumāda II/ 1279発行): 「Qa'an yārlīghīndīn/ Abaqā yārlīghīndīn/ Arghūn sūzīndīn/ šāhib-dīwān sūzī」[Saḫna'-i Tabrīz, 412.]カーン、アバカ、アルグンの権限付与によるトルコ語定型句/内政文書でカーンの権威に言及する唯一の事例か

・冒頭定型句のヴァリエント：*Risāla-i Šāhibīya*写本収録アブーサイド期アール・タムガー文書※
写し(4文書) →資料II-1 …サーヒブ・ディーワーン(財務長官)発給文書冒頭書式がトルコ語・ペル
シア語で複数使用されていたことを示す

※イル・ハン朝内での文書行政階層秩序：君主発給勅令・高官発給文書→印章の種類による分類

*Laṭā'if al-Inshā'*の叙述 [渡部2004]→資料II-2

āl-tamghā=ワズィール(wazīr、宰相)、サーヒブ・ディーワーンが発行する財務関連文書 *al-Irshād al-Inshā'*(*Dastūr al-Kātib*の簡略版)：行政文書をyārliḡhとāl-tamghāに分類 [渡部2002]

1-2. 抬頭

1-2-1. ペルシア語文書における抬頭

・抬頭=ペルシア語文書様式に長期的に定着したモンゴル命令文の様式 [Fragner 1999]

・ウイグル文字モンゴル語文書の抬頭：改行により対象語を最上部へ／抬頭・平出=権威の序列化
[松川1995]

・右横書きアラビア文字文書：対象語を右欄外に抜き出す／現文書で確認できる改行の例は僅か
([Her 7]704/ 1305年アミールHusayn発給文書) →資料III-1(表)

・対象語：モンゴル王朝・支配層に属する語が中心=ヤルリグ、日々いや増す幸運(*dawlat-i rūz-afzūn*
=王朝)、イル・ハン、有力アミールの名、イーンジュー(*īnjū*)、タムガ、タウキー、その他君主に関
連する語(「陛下の側近*muqarrab al-hadrat*」の「陛下*al-hadrat*」の部分/ハーン暦*Khānī*)／イスラーム関
連語彙は必ずしも抬頭されない …→次第に神の名他イスラーム語彙も対象に？

1-2-2. インシャー史料における抬頭の認識

・モンゴル支配期ペルシア語文学における抬頭の影響：史書における利用

Ibn Bībī, *Awāmīr*写本MS. *Āyā Šūfiya* 2985(682/1283年以前作成、Ghiyāth al-Dīn Kay Khusraw III(r.
663-81/ 1265-82)の図書館に献呈)：カーン・諸王の名、ヤルリグ、偉大なるウルク(*urugh-i mu'azzam*=
チンギス家)等の語が欄外に抬頭

・14世紀インシャー術指南書における抬頭の認識 [渡部2004] →資料III-2

→抬頭の対象の変化：モンゴル政権支配層から神に対する作法へ

→対象語の位置による権威の序列化：当該行の右またはやや上=通常の抬頭／特に敬意を要する語
は、右欄外最上部へ

※*Awāmīr*写本：モンケ[*Awāmīr*, 616]、イルハン・フレグ[627]、チンギス・ハン[677]、アバカ[738]、
アバカの弟コンクルタイ[682, 700]=葉最上部に抬頭／バトゥ(*Šā'in Khān*)=通常の抬頭

※現文書における最も古い例：アク・コユンル朝のオスマン朝宛文書→サファヴィー朝外交信書の形
式の一つ[Mitchell 1997]

2 モンゴル支配期インシャー史料収録ペルシア語公文書の蒐集・分析：ジュワイニー家書簡群収録 命令書を事例に

2-1. ペルシア語行政文書におけるモンゴル命令文書式の影響

・大元ウルス・モンゴル文書行政研究 [杉山 1991 et.al][中村 1993 et.al][松川 1995][宮2003]：クビライ
期以降の命令文書式の形式化→命令文を逐語訳的に発令対象地言語に翻訳する多言語翻訳システム
と漢語翻訳体の発達…文書構成・文体上の特徴

・イラン高原ペルシア語文書構成・文体へのモンゴル文書行政の影響 [渡部2009(口頭発表)]

※文書史料(アルダビール文書群)・史書の文書写し(ガザンのヤルリグ)、Dastūr al-Kātib第2部第1bāb第1darbモンゴル・アミール職務・官職任命文書(36用例)を中心に文書構成・文体を検討

→イル・ハン朝・ジャライル朝期ペルシア語文書＝モンゴル命令文書式の浸透

構成上の影響：《通知先》／《発令宣言》の形式・機能 →資料IV

文体への影響：モンゴル命令文文言の直訳的表現の存在

・ペルシア語文書構成・文体の持続＝モンゴル命令文書式を吸収：基礎的構文、命令の持続性の保証、威嚇・命令確証の定型句＝モンゴル時代以前のペルシア語公文書書式から継承

…→文献史料の写し文書を含むより多くの事例検討の必要あり／プロジェクト課題＝インシャー史料収録モンゴル政権命令文写しの渉猟・蒐集

2-2. ジュワイニー家書簡群

・イルハン朝初期に権勢を振るった宰相一族Juwaynī家の(に帰せられる)書簡・公文書群の写し

Shams al-Dīn Muḥammad Juwaynī (1284処刑) / ‘Alā’ al-Dīn ‘Atā’ Malik / Bahā’ al-Dīn Muḥammad b.

Shams al-Dīn

・原本が発見されていない/現存写本は様々なヴァリエーション(集成～断片)→独立の作品としてではなく、好んで書写される書簡群として存在(Fakhr al-Dīn Bayārī Harawī(d. 700/ 1300-1)らイル・ハン朝要人の書簡も併録)／14～15世紀前半に流布→その後、流布が終止？

・先行研究：[Paul 1999] 3写本による分析・紹介／[渡部 2003(口頭発表)] 8写本を調査、流布書簡群のヴァリエーションとその特徴の検討

2-3. Shams al-Dīn Juwaynī発給命令書(5文書)→4文書の試訳 →資料V

①666/ 1268年Naṣīr al-Dīn Ṭūsīへのイドラール(idrār, 給付金)

②678/ 1279年ナフチヴァーンのマドラサ教授職の授与

③タブリーズ住民への叱責(発行日不明)

④カーディー職の授与(発行日・対象地不明)

⑤ザーウィヤのシャイフへのイドラール

・モンゴル支配期イラン史研究の観点から：首都タブリーズの状況／公式改宗以前のイスラーム政策(ワクフ管理、マドラサ教授職・カーディー職任命)

cf. イル・ハン朝初期の全国のワクフ管理＝一括してṬūsīに委ねられる[黒柳1966]／ワクフ管理の破綻、医師・占星術師のイドラール支給[渡部1997]

・モンゴル命令文研究の観点から：構成・文体にモンゴル命令文の影響は殆どなし(トルコ語冒頭書式は使用していた形跡)／モンゴル時代以前・セルジューク朝・ホラズムシャー朝期の文体 ……イル・ハン朝発行ペルシア語命令書の多様性示す

3. 終わりに

・西アジアイラン高原モンゴル政権文書行政研究におけるインシャー史料：限られた文書史料を補う／文書形式学的にも重要な情報

・インシャー史料と現文書の相違：編纂意図(何を記録・保管しようとしていたか)→文書作成術をめぐる認識・インシャー集編纂の伝統～ペルシア語圏におけるインシャー術と現実の文書行政の相関

文献目録

一次史料

【インシャー史料】

【指南書】

- *Dastūr-i Dabīrī*: al-Mayhanī, Muḥammad b. ‘Abd al-Khālīq, *Dastūr-i Dabīrī*, ed. by A. S. Erzi, A, Ankara, 1962.
- *Dastūr al-Kātib*: Nakhchiwānī, Muḥammad b. Hindūshāh, *Dastūr al-Kātib fī Ta’yīn al-Marātib*, ed. by A. A. Alizade, 3vols., Moscow, 1964-76.
- *Irshād*: Nakhchiwānī, Muḥammad b. Hindūshāh, *Irshād fī al-Inshā’*, MS. Süleymaniye Kütüphanesi, Esad Efendi 3342 [film in Kitābkhāna’-i Markazī-yi Dānishgāh-i Tihirān, no. 192]
- *Jalāliya*: Muḥammad b. ‘Alī Nāmūs Khwārī, *Tuhfa-yi Jalāliya*, MS. Universitätsbibliothek Tübingen, Or. Oct 3512. [film in Kitābkhāna’-i Markazī-yi Dānishgāh-i Tihirān, no. 1191], foll. 52a-64b.
- *Laṭā’if*: Naṭr Allāh b. ‘Alā’ al-Bannā’ al-Nasafī, *Laṭā’if al-Inshā’*, MS. Majlis, 4719.
- *Nafā’is*: Shams al-Dīn Muḥammad Āmulī, *Nafā’is al-Funūn fī ‘Arā’is al-‘Uyūn*, ed. by Ḥ. M. A. Shi’rānī, 3vols., Tihirān, 1377-9kh.
- *Ṣāhibīya*: anonym, *Risāla’-i Ṣāhibīya*, MS. Malik 3697/ 6
- *Ṣubḥ*: al-Qalqashandī, Abū al-‘Abbās Aḥmad, *Ṣubḥ al-A’shā’ fī Ṣinā’a al-Inshā’*, 14vols., al-Qāhira, 1963.

【インシャー集】

- ‘*Ataba*: Muntajab al-Dīn Badī’ al-Kātib al-Juwaynī, ‘*Ataba al-Kataba*, eds. by M. Qazwīnī & ‘A. Iqbāl, Tihirān, 1329kh.
- *Mukhtārāt*: anonym, *al-Mukhtārāt min al-Rasā’il: Majmū’a’-i Munsha’āt wa Farāmīn wa Ahkām-i Dīwānī wa Shar’ī wa ‘Urft az Qurūn-i Panjum wa Shishum wa Haftum-i Hijrī*, Afshār, I. ed., Tihirān, 2535sh.
- MS. Nakhchiwānī: Munsha’āt, MS. Nakhchiwānī [film in Kitābkhāna’-i Markazī-yi Dānishgāh-i Tihirān]
- *Tawassul*: Bahā’ al-Dīn Baghdādī, *al-Tawassul ila’l-Tarassul*, Bahmanyār, A. ed., Tihirān, 1332kh.
- *Wasā’il al-Rasā’il*: Nūr al-Dīn Munshī, *Wasā’il al-Rasā’il wa Dalā’il al-Faḍā’il*, ed. by R. Samī’-zāda, Tihirān, 1381kh.
- *Waṭwāt*: Rashīd al-Dīn Waṭwāt, *Nāma-hā-yi Rashīd al-Dīn Waṭwāt*, ed. by Q. Tū’isarkānī, Tihirān, 1338kh.

【その他の史料】

- *Awāmīr*: Ibn Bībī, *El-Evamirü’l-‘Alaiyye fī’l-umuri’l-‘Alaiyye*, ed. by A. S. Erzi, Ankara, 1956.
- *Jāmi’*: Rawshan: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī *Jāmi’ al-Tawārīkh*, ed. by M. Rawshan, 4vols., Tihirān, 1373kh.
- *Masālik*: al-‘Umarī, Ibn Faḍl Allāh, *Masālik al-abṣār fī mamālik al-amṣār*, *Das Mongolische Weltreich*, ed. & trans. by K. Leck, Wiesbaden, 1968.
- *Nihāya*: al-Nuwayrī, Aḥmad b. ‘Abd al-Wahhāb, *Nihāya al-Arab fī Funūn al-‘Adab*, vols. 1-18, al-Qāhira, 1954, vols. 19-26, eds. by M. A. Ibrāhīm et al., al-Qāhira, 1975-85.
- *Safīna’-i Tabrīz*: Abū al-Majd Muḥammad b. Mas’ūd Tabrīzī, *Safīna’-i Tabrīz*, Tihirān, 1381kh.
- *Sulūk*: al-Maqrīzī, Taqī al-Dīn Aḥmad, *Kitāb al-Sulūk li-Ma’rifa Duwal al-Mulūk*, vols. 1-2, ed. by M. M. Ziyāda, al-Qāhira, 1939-58, vols. 3-4, ed. by S. A. ‘Āshūr, al-Qāhira, 1970-3.

二次文献

- Allouche, A., “Tegüder’s Untimatum to Qalawun”, *Journal of Middle Eastern Studies*, 22 (1990), 437-46.
- Amitai-Preiss, R., “An Exchange of Letters in Arabic between Abaya Ilkhān and Sultan Baybars (AH 667/ AD 1268-69)”, *Central Asiatic Journal*, 38 (1994), 11-33.
- [B/H]Barthold, V. V. & Hinz, W., “Die persische Indchrift an der Mauer der Manūcehr-Moschee zu Ani”, *ZDMG*, 101 (1951), 241-69.
- [Cl]=Cleaves, F., “The Mongolian Documents in the Musée de Téhéran”, *Harvard Journal of Asiatic Studies*, 16 (1953), 1-107.
- [Cl/Mos]Mostaert, A. & Cleaves, F., “Trois documents mongols des Archives secrètes vaticanes,” *Harvard Journal of Asiatic Studies* 15 (1952), 467-82

- Fragner, B. D., "Tradition, Legitimität und Abgrenzung: Formale Symbolaussagen persischsprachiger Herrscherurkunden", W. Slaje & C. Zinko eds., *Akten des Melzer-Symposiums*, 1991, Graz, 1992, 84-113.
- , "FARMĀN", *Elr*, vol. 9, 1999, 282-95.
- [Hae]Haenisch, E., "Zu den Briefen der mongolischen Il-khane Arjūn und Öljeitū an den König Philipp den Schönen von Frankreich (1289 u. 1305)", *Oriens*, 2 (1949), 216-35.
- [Her 1973]Herrmann, G., "Ein Erlaß des Galāyeriden Solṭān Ḥoseyn aus dem Jahr 780/ 1378", *Göttinger Orientforschungen 1/ Reihe Syriaca* 3 (1973), 135-63.
- , "Zum persischen urkundenwesen in der Mongolenzeit: Erlasse von Emiren und Weziren", D. Aigle, *l'Iran face à la domination mongole*, Tihṛān, 1997.
- [Her]Herrmann, G., *Persische Urkunden der Mongolenzeit*, Wiesbaden, 2004.
- [Her/D: a]Herrmann, G. & G. Doerfer, "Ein persisch-mongolischer Erlaß des Galāyeriden Seyh Oveys", *Central Asiatic Journal*, 19:1/2 (1975a), 1-88.
- [Her/D: b]Herrmann, G. & G. Doerfer, "Ein persisch-mongolischer Erlaß aus dem Jahr 725/1325", *ZDMG* 125 (1975b), 317-46.
- Khaṭībī, Ḥ., *Fann-i Nathr dar Adab-i Pārsī*, Tihṛān, 1375 (2nd ed.)
- Kotwicz, W., "Formules initiales des documents mongols aux XIII-e et XIV-e ss.", *Rocznik Orientalistyczny* 10 (1934), 131-57.
- Maseé, H., "Ordonnance rendue par le prince ilkhanien Ahméd Jalair en faveur du Cheikh Ṣadr ad-Dīn (1305-1392)", *Journal Asiatique*, 1938, 465-8.
- Minorsky, V., "A Mongol Decree of 720/1320 to the Family of Shaikh Zāhid", *BSOAS*, 16 (1954), 515-27.
- Mitchell, C., "Safavid Imperial Tarassul and the Persian Inshā' Tradition", *Studia Iranica*, 26 (1997), 173-209.
- Mojtabā'i, F., "CORRESPONDENCE: ii- In Islamic Persia", in *Elr*, Vol. 6, California, 1993, 290-293.
- [Nakh]Nakhchiwānī, Ḥ. Ḥ., "Farmānī az Farāmīn-i Dawra'-i Mughūl", *Nashrīya'-i Dānishkada'-i Adabiyāt-i Tabrīz*, 4: 5 (1332kh), 40-7.
- [Pa]Papazian, H. D., Deux nouveaux iarlyks d'ilkhans", *Banber Matenadarani*, 6 (1962), 379-401.
- Paul, J. "Anonyme arabishe und persische inā'-Handschriften aus den Sammlungen der Süleymaniye-Bibliothek (Istanbul)", *ZDMG*, 144 (1994), 301-29.
- , "Inshā' Collection as a Source on Iranian History", in Fragner, B. G. et al. eds., *Proceedings of the Second European Conference of Iranian Studies: Held in Bamberg, 30th September to 4th October 1991, by the Societas Iranologica Europaea*, Roma, 1995, 535-50.
- , "ENSĀ'", *Elr*, VIII, 1998, 455-457.
- , "Some Mongol inshā' Collections: The Juvaynī Letters", in Melville, Ch. ed., *Proceedings of the Third European Conference of Iranian Studies: Held in Cambridge, 11th to 15th September 1995: Part 2, Medieval and Modern Persian Studies*, Wiesbaden, 1999, 277-85.
- Pelliot, P., *Les Mongols et la Papauté*, Paris, 1923.
- [QM]Qā'im Maqāmī, J., *Yakṣad wa Panjāh Asnād-i Tārīkhī az Jalā'iriyān tā Pahlawī*, Tihṛān, 1348kh.
- , *Muqaddama'ī bā Shinākht-i Asnād-i Tārīkhī*, Tihṛān, 1350kh.
- Rajabzāda, H., "CORRESPONDENCE: iii- Forms of Opening and Closing, Address, and Signature", *Elr*, VI, California, 1993, 293-8.
- Roemer, H.R., "INSHĀ'", *EI2*, vol. 3, 1971, 1241-4.
- [Smith]Soudavar, A., "Farmān of Il-Khān Gaykhātū", Soudavar, A., *Art of the Persian Court*, New York, 1992, 34-5.
- Turan, O., *Türkiye Selçukluları hakkında Resmî Vesikalar: Metin, Tercüme ve Araştırmalar*, Ankara, 1958 (2nd ed., 1988).
- 磯貝健一「17世紀初頭ブハラ之死地蘇生文書について」『史林』82: 2 (1999), 32-68.
- 岩武昭男「イルハン朝期のイドラール(idrār): モンゴルのイラン支配の一齣」『オリエント』41: 2 (1988), 80-97.
- [海老沢]海老沢哲雄「1285年のアルゲン=ハンの教皇宛書簡について」酒井忠夫先生古希祝賀記念の会(編)『歴史における民衆と文化--酒井忠夫先生古希祝賀記念論集』国書刊行会, 1982, 889-901.

- 岡崎敦「文書形式学」高山博・池上俊一(編)『西洋中世学入門』東京大学出版会 2005, 19-72.
- 小野浩「「とこしえの天の力のもとに」-----モンゴル時代発令文の冒頭定型句をめぐって」『京都橘女子大学研究紀要』20 (1993), 209-187.
- [小野]-----「とこしえなる天の力のもとに」『中央ユーラシアの統合』(岩波講座世界歴史11)、岩波書店刊, 1997, 203-26.
- 「メフメトII世のヤルリグ：バシュケントの戦いに関する一史料」『京都橘女子大学研究紀要』26.
- 黒柳恒男「ナスィール・ウッ・ディーン・トゥーサーの生涯と業績」『オリエント』9: 2/3 (1966), 163-168.
- 近藤治「ムガル朝時代の文書行政について」『西南アジア研究』55 (2001), 19-43.
- 近藤信彰「イラン、トゥラン、ヒンド」『イスラーム・環インド洋世界』(岩波講座世界歴史14)岩波書店, 2000, 93-114.
- 杉山正明「モンゴル命令文研究導論：真定路元氏県開化寺聖旨碑の呈示をかねて」『モンゴル帝国と大元ウルス』372-402. [初出：「元代蒙漢合璧命令文の研究(一)」『内陸アジア言語の研究』5 (1990), 1-31+2pls.]
- 「草堂寺■端太子令旨碑の訳注」『モンゴル帝国と大元ウルス』425-56. [初出：『史窓』47 (1990), 87-106.]
- 「山東鄒県 山仙人宮の聖旨碑」『モンゴル帝国と大元ウルス』403-424. [初出：「元代蒙漢合璧命令文の研究(二)」『内陸アジア言語の研究』6 (1991), 35-55+2pls.]
- 「八不沙大王令旨碑より」『モンゴル帝国と大元ウルス』187-240. [初出：『東洋史研究』52: 3 (1993)]
- 『モンゴル帝国と大元ウルス』京都大学学術出版会, 2004.
- 堤一昭「大元ウルス高官任命命令文研究序説」『大阪外国語大学論集』29 (2003)
- 中村淳「元代法旨に見える歴代帝師の居所----大都の花園大寺と大護国仁王寺」『待兼山論叢(史学篇)』27 (1993), 57-82.
- 中村淳・松川節「新発見の蒙漢合璧少林寺聖旨碑」『内陸アジア言語の研究』8 (1993), 1-92+8pls.
- 本田実信『モンゴル時代史研究』東京大学出版会, 1991.
- 松川節「大元ウルス命令文の書式」『待兼山論叢(史学篇)』29 (1995), 25-52.
- 宮紀子「モンゴルが遺した「翻訳」言語：旧本『老乞大』の発見によせて(上)」『内陸アジア言語の研究』18 (2003), 53-96.
- 渡部良子「イルハン朝の地方統治---ファールス地方行政を事例として」『日本中東学会年報』12 (1997), 185-216.
- 「『書記典範』の成立背景---14世紀におけるペルシア語インシャー手引書編纂とモンゴル文書行政」『史学雑誌』111: 7 (2002), 1-31.
- 「モンゴル時代の書簡作品：写本による分析」「イスラーム写本・文書史料の総合的研究」研究会(2003年7月26日、於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
- 「モンゴル時代におけるペルシア語インシャー術指南書」『オリエント』46: 2 (2004), 197-224.
- 「13-14世紀モンゴル支配期イランにおける文書行政と伝統的ペルシア語書記術：文書の構成と定型的表現を手がかりに」(2009年11月5日AA研フォーラム報告 於・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

付表I：13-14世紀イル・ハン朝、ジャライル朝期モンゴル語・ペルシア語・アラビア語文書史料・略号一覧(一部文献史料収録の写しを含む) ※文書略号は文献目録を参照

(A)外交文書

(A-I)対ヨーロッパ外交文書(ウイグル文字モンゴル語/ラテン語訳)

《ウイグル文字モンゴル語》

[Cl/Mos: A] Abaqa発給通行証(?1267/ ?1279)

[Hae: I] Arghun→Philippe le Bel(1289)

[Cl/Mos: B] Arghun→Nicholas IV(1290)

[Cl/Mos: C] Ghazan→Boniface VIII(1302)

[Hae: II] Öljeitü→Philippe le Bel(1305)

《ラテン語訳(写し)》

[小野] Abaqa→Clement IV(1268)

[海老沢] Arghun→Honorius IV(1285)

(A-II)対アイユーブ・マムルーク朝アラビア語外交文書(写し)

- Hülegü→al-Nāṣir Yūsuf(1258)：返書あり[Sulūk, I, 415-416; Amitai-Preiss 1995]

- Hülegü→Qutuz(658/ 1260)[Sulūk, II, 427-9; Ibn Iyās, Badā'i', I-1, 304-5]

- Abaqa→Baybars(667/ 1268-9)：返書あり[Amitai-Preiss 1994]

- Aḥmad→Qalāwūn(1284)[Allouche 1990]

- Ghazan→Nāṣir b. Qalāwūn(700/ 1301)：返書あり[Nihāya]

- Abū Sa'īd宛Nāṣir b. Qalāwūn書簡[Subh, VII, 253-6.]

(B)内政文書

(B-I)君主発給勅令

(B-I-1)ウイグル文字モンゴル語

[Cl: I] 冒頭3行のみ/日付なし

[Cl: II] 末尾のみ/日付なし

[Cl: III] Abū Sa'īd(1320)

(B-I-1)モンゴル語・ペルシア語合璧文書

[Her/D:b] Abū Sa'īd(725/1325)

[Her/D: a] Shaykh Uways(759/ 1358)

(B-I-2)ペルシア語文書(現文書)

[B/H] Abū Sa'īd(1325?)

[Pa: I] Abū Sa'īd(730/ 1329-30)

[Pa: II] Abū Sa'īd(731/ 1330-31) ? 冒頭部欠落

[Her: 25] Shaykh Uways (775/ 1373)

[QM] Aḥmad Jalā'ir(773/ 1372)

[Her '73] Sulṭān Ḥusayn Jalā'ir(r. 1374-1382)(780/1378)

[Her:26] Sulṭān Ḥusayn (781/ 1379)

《ペルシア語文書(写し)：Ghazanのヤルリグ》

[Jāmi'] 裁判制度(4点)[Jāmi' / Rawshan, II, 1387-1407.]；税制改革[1430-41.]；度量衡統一[1462-6.]；イクター授与[1479-86.]

(B-II)アミール・高官・王族発給文書

- [Her: 1] アミールBāytmish (678/ 1289)
 [Her: 2] アミールBāytmish (691/ 1292)
 [Her: 3] 宰相Aḥmad (692/ 1293)
 [Smith] 宰相Aḥmad /Shiktūr/Gaykhatu(-----)
 [Her: 4] アミールTāyfü (700/ 1301)
 [Her: 5] アミールQutlugh Shāh /Öljeitü(704/ 1305)
 [Her: 6] 宰相Sa'd al-Dīn /Öljeitü (704/ 1305)
 [Her: 7] アミールḤusayn(704/ 1305)
 [Her: 8] アミールChūbān/Abū Sa'īd (721/ 1321)
 [Her: 9] アミールDimashq Khwāja/Abū Sa'īd (723/ 1323)
 [Her: 10] ハトゥンDilshād (731/ 1331)
 [Her: 11] ディーワーン(733/ 1332)
 [Her: 12] アミールAmīr Khān (734/ 1334)(断片)
 [Nakh] 宰相Zakariyā/Shaykh Ḥasan/Muḥammad(737-8/ 1337-8)
 [Her: 13] ある高官(7../ 13..)
 [Her: 14] アミールShaykh Ḥasan Chūbānī/Sulaymān(743/ 1342)
 [Her: 15] アミールTājāntemür (743/ 1343)
 [Her: 16] アミールRustam Ashrafī (750/ 1349)
 [Her: 17] アミールRustam Ashrafī (750/ 1349)
 [Her: 18]16, 17 と同内容
 [Her: 19] (754/ 1353)
 [Her: 20] (754/ 1353)
 [Her: 21] アミールMalik Ashraf (755/ 1354)
 [Her: 22] アミールAkhī Ashrafī (759/ 1358)
 [Her: 23] 王子Shaykh 'Alī (766/ 1365)
 [Her: 24] Sulṭān Shāh (771/ 1369)
 [Her: 27] あるアミール(782/ 1380)
 [Her: 28] (785/ 1383)